

学校教育目標
自ら輝け 夢をつかめ
～笑顔・感動 はつらつ植水～

学校だより

瑞穂



令和5年度3月号
令和6年3月1日
さいたま市立植水中学校
HP uemizu-j@saitama-city.ed.jp

三寒四温

校長 山口 聡



学校周辺の紅梅、白梅も満開を過ぎ、春の訪れを間近に感じるようになりました。また桜の開花が発表されました。埼玉県の開花予想日は3月21日で、平年より6日早いとのことでした。桜の花芽の休眠打破には適切な寒さが必要で、今年は東日本の太平洋側では冷え込みが長続きせず、休眠打破の進みが鈍い可能性があるようです。

そして休眠打破が十分でないところでは開花が予想より少し遅れる場合があるそうです。寒さが足りなくて、開花が遅れると聞くと少し不思議な感じがします。

この季節によく「三寒四温」という言葉が使われます。詳しく調べてみると冬の季語として1月から2月に使われていたもので、「冬季に寒い日が3日ほど続くと、そのあと4日ほど温暖な日が続く、また寒くなることが繰り返される中国大陸の北東部に現れる現象」のことだそうです。日本ではこのような現象は少なく、近年では本来の意味から外れて春先の気象の表現として用いられることが多くなっているようです。

「三寒四温」と聞くと「春」と感じるのは「温」がひとつ多いからではないでしょうか。私はこの言葉の「寒」をつらいもの、「温」を気持ちの良いものと置き換えて考えるときがあります。つらいことよりも一つ多く良いことがあると考え、なんとなく元気が湧いてくるからです。

3月は年度のまとめの月です。生徒諸君には、これまでの生活を振り返り、来年度に向けての準備をしてほしいと思います。また3年生にとっては中学校生活3年間のまとめの月ともなります。新しい春はもうすぐそこに来ています。やり残したことが無いように最後まで全力で中学校生活を送ってほしいと思います。